



図1 ふくらの森地域資源として3つの視点

表1 提案事業の事業費概要

年度	市補助	連合自治会	合計
H22	40万円	10万円	50万円
H23	64万円	16万円	80万円
H24	40万円	10万円	50万円
H25	40万円	10万円	50万円
合計	184万円	46万円	230万円

最近、地方創生ということが話題になっていますが、地域の宝（資源）を湯田地域という身近なところで考えてみますと、プラザふくらの森や農産物直売所とその一帯に広がるふくらの森を最大に活かすことで地産地消の地域振興につなげていきたいということが活動の原点です。

そこで、ふくらの森をもう一度地域資源として見直すことで、大きな効果が期待できるのでないかと考えました。（図1）

**地域づくり提案事業による  
ふくらの森  
保全活動でみえてきたもの**

それは地域の宝さがしから始まった

**提案事業の経過**

しかし、ふくらの森は人が入れないくらい鬱蒼として、ゴミのたまり場でもありました。

そこで、提案事業の支援を受けて（表1）、森の保全活動に着手したのは大河ドラマ三姉妹の博覧会場（プラザふくら）の周辺整備でした。



整備された大依道周辺 (H23.5)



藪化した整備前の森

続いて二年目は子ども達の環境フィールド整備として、森の中で活動できる空間をつくりました。そして、三年目は、里山の魅力を専門家の先生に語ってもらう里山ふくら塾です。



子ども達の活動フィールド整備 (H23.12)



大盛況の三姉妹博覧会 (H23.11)



湯田小学校の森の学習 (H26.2)

長浜パイオ大生の活動参加 (H24.7)

**提案事業の効果と今後**

この四年間実施した活動により、大学生の参加や多くの方の関心をいただくことができました。今後この地域に湯田ひいては浅井の拠点として多くの方の交流と雇用の場となることを願っています。（図2）

また、森の恵みといえばシイタケ、ヒラタケなどのきのこですが、昨年度はこれを栽培するための基礎づくりを行いました。



三兄弟のシンボルツリー (H25.11)



原木のシイタケ植菌 (H26.3)



図2 ふくらの森をロケーションに直売所と連携する周辺施設の検討